

カザフスタンのアルマトイ市の第六次五カ年計画・
七カ年計画における ソビエト政権下の都市計画・建
築に関する研究動向と課題：（フルシチョフ政権時
代のソビエト・カザフスタンの一般建築史）

諸喜田, 真
フリーランス

<https://doi.org/10.15017/7337606>

出版情報：都市・建築学研究. 47, pp.53-68, 2025-01-15. Faculty of Human-Environment Studies,
Kyushu University

バージョン：

権利関係：



カザフスタンのアルマトイ市の第六次五カ年計画・七カ年計画における
ソビエト政権下の都市計画・建築に関する研究動向と課題
(フルシチョフ政権時代のソビエト・カザフスタンの一般建築史)
Research trends and issues on urban planning and architecture under the Soviet
regime in the Sixth Five-Year Plan and Seven-Year Plan in Almaty, Kazakhstan
(General Architectural History of Soviet Kazakhstan during the Khrushchev
Regime)

諸喜田 真*
Shin Shokita

In the Sixth Five-Year Plan and Seven-Year Plan industrialization and standardization of architecture were promoted. Foreign methods and technologies were introduced, such as microdistricts in the UK and shell structures, and were deployed in Kazakhstan as well. The legacy of constructivism was also utilized, and after 1960 glass was introduced as a new material too. After that mosaics and colors were installed on the walls, and mosaics were also used in public buildings to express ideology, and sunshade louvers and sunscreens along Kazakhstan's climate were introduced. A new socialist realism was constructed together with new foreign technologies, and Lenin's "two cultures" had been formed.

Keywords : Soviet architecture, Microdistrict, Kazakhstan, Almaty, Soviet modernism, Khrushchev
ソビエト建築, マイクロディストリクト, アルマトイ, ソビエトモダニズム, フルシチョフ

1. はじめに

1.1 研究の背景

ソ連時代のフルシチョフ時代における 1955 年から 1965 年までの第六次五カ年・七カ年計画のカザフスタンのアルマトイの建築に関する論文は 2024 年の諸喜田真の論文 1.1 項にて言及された論文^{文献1)}を除いて, 2017 年のエリザベータ・マリノフスカヤ「Николай Иванович Рипинский (1906, Москва – 1969, Алматы) (ニコライ・イワノビッチ・リピンスキー (1906, モスクワ– 1969, アルマトイ))」があるが, マリノフスカヤの論文はアルマトイのレーニン宮殿とその設計者であったリピンスキーに関するものである。

この時代のカザフスタンの建築に関する書籍として前述の諸喜田真の論文に言及されたものを除き, ソ連時代に出版されたものは 1963 年の E.D. ドゥイセノフ

「Алма-Ата сегодня и завтра (アルマ・アタの今日と明

日)」、1973 年の T.K. バセノフ, V.M. ゲルシュベルグ等の「Градостроительство Казахстана (カザフスタンの都市計画)」, 1980 年の A.A. アブサディオフ「Развитие жилищного строительства в Казахстане (カザフスタンにおける住宅建設の発展)」等がありソ連崩壊を経て独立後に出版された書籍は, 2010 年の E.K. アウエゾフ, N.P. チュラコフ「Алматы. Архитектурные хроники (история создания уникальных зданий города) (アルマトイ. 建築クロニクル (都市のユニークな建物の創造の歴史))」, 2018 年の A. ブロノヴィツカヤ, N. マリニン「АЛМА-АТА: Архитектура Советского Модернизма 1955-1991 (アルマ・アタ: ソビエトモダニズムの建築 1955-1991)」が挙げられるが, ドゥイセノフの著書は当時のアルマ・アタの社会・建築状況が記述されているがモスクワの建築政策・状況に関しては記述がなく, T.K. バセノフ, V.M. ゲルシュベルグの著書は都市計画というタイトルにも拘らずどのような建築が建てられたという記述のみでほぼ写真アルバムである。アブサディオフの著書はソ連時代のカザフスタンにおける住宅建築の歴史で主にソ連とカザフス

* フリーランス

タンの政策と住宅建設における経済・技術的な話であるが政策・建築状況そのものの説明はない。アウエゾフの著書はアルマトイの代表的な建築を取り上げ簡潔な歴史を記述している。プロノヴィツカヤとマリニンの著書は1955年以降のアルマ・アタのソビエトモダニズム建築に関する物であり、これまで挙げた著書やカザフスタンのジャーナリストが書いた記事を参考にしたガイドブック的な内容である。よってフルシチョフ時代のカザフスタンのアルマトイの建築について中央のモスクワの政策や建築界の状況との詳細な関連性が把握できない。

1.2 研究の目的と方法

カザフスタンのアルマトイにおけるフルシチョフ政権時代の第六次五カ年・七カ年計画における建築において建築様式・形態の傾向はサモイロフの論文により明らかにされているが、政策や建築界の状況によりどのようにそれらが移行していったのか明らかにされていない。

分析の方法として過去の研究論文やこれまで出版されてきた書籍・雑誌などの二次資料をレビューしながら第六次五カ年計画・七カ年計画においてソ連共産党による政策がどのように決議され都市計画・建築デザイン・構法がカザフスタンのアルマ・アタにおいて実行されていたのか、また当時中央の建築家の発言や言説・論考がその後の都市計画・建築にどのような影響をもたらしたのかを考察しその変遷を本稿にて明らかにしていく。

また過去の論文や二次資料をレビューしながら明らかにされていない項目を抽出し今後一次資料を基にどのような研究が必要かを考察していく。

2. フルシチョフ政権樹立前後のソ連の政治・建築界の状況

大祖国戦争中ナチスに占領されていた地域が解放され、1943年ソ連共産党中央委員会（以降 CPSU 中央委員会）は「ドイツの占領から解放された地域の経済回復のための緊急措置について」の決議を行い住居や工場などが新たに建設されていった^{文献2)}。

1952年モスクワにて第19回 CPSU 党大会が開催され、1951年から1955年までのソ連の第五次五カ年開発計画に関する決議が行われ、「産業分野において五年間で工業生産レベルを約70%増加」が目標とされ^{文献3)}、「国民経済の増大する需要に応えるため、建設の更なる工業化、コストの削減（筆者訳）」^{文献4)}が指示された。「建築および建設工事のコストを着実に削減するという課題が最も重要で、（中略）大幅な建設コストの削減はあらゆる過剰な設計の排除によってのみ可能（筆者訳）」^{文献5)}とされ、これまでの古典的な建築様式が批判されていった。

1953年にスターリンが亡くなり後任の第一書記にフルシチョフが同年就任し、1954年11月から12月にか

てモスクワで行われた全ソ連建設業者会議においてフルシチョフは「建築装飾における過剰を許す建築家が建設の工業化への障害となっている（筆者訳）」^{文献6)}と指摘した。その理由に「1. 建築が物質的な要件ではなく美的欲求の満足に基づいている場合の建築の形式主義的な理解、2. 単一の建築および建設事業を『高度な』建築といわゆる単純な建築に人為的に分割すること（従って大量建設、工業および農業建築が過小評価されている）、3. 新しいテクノロジーと経済的要件を過小評価し無視すること、4. 国家遺産に対する無批判で修復主義的な態度であり、それぞれの国民文化における過去の二つの文化、すなわち民俗文化、進歩文化と搾取的反動的文化の存在に関するレーニンの立場を過小評価していること（筆者訳）」^{文献7)}とこの四点を挙げ、ソ連の建築アカデミーの指導者たちが装飾的建築を推奨し国家の経済問題に対して解決してなかった事を強く非難した^{文献8)}。またフルシチョフは「構成主義を批判した建築家は過剰で不必要な装飾をファサードに用い資金の無駄であり、（中略）構成主義との戦いは合理的な手段によって遂行すべき（筆者訳）」^{文献9)}と構成主義の否定ではなく合理的発展を主張した。

1955年に全ソ連建築家連合理事会第17回総会が開催され「過去の建築遺産と外国の経験を含む現代の創造的実践から得られる全てを批判的に利用する必要性（筆者訳）」^{文献10)}が求められた。

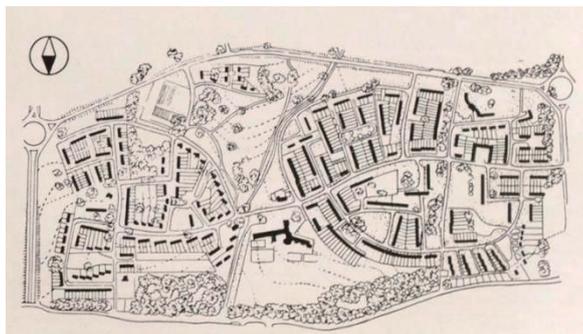
1955年8月に CPSU 中央委員会と閣僚評議会において「更なる工業化、品質の向上及び建設費の削減のための措置について」、1955年11月に「設計と建設における過剰の排除」が決議され^{文献11)}、11月の決議において「建築の外見上の過剰な要素が蔓延しており、（中略）不当な塔の上部構造、数多くの装飾的な柱廊や柱廊玄関、その他過去から借用した過剰な建築物は公的資金が過剰に支出された（筆者訳）」^{文献12)}とし、「建設は最も経済的な標準設計に従って実行される必要があり、（中略）建築における過剰を排除することが住宅、文化、工業、農業の建設の更なる拡大、都市と町の改良と造園の拡大に繋がる（筆者訳）」^{文献13)}と決議された。

この決議内容を受け、1955年11月から12月にかけて第二回全ソ連建築家連合会議がモスクワにて開催され、「住宅および土木建築物の標準設計と大量建設」、「ソビエト都市計画の実践と主な課題」、「工業建設における標準設計」等の報告が行われた^{文献14)}。会議において「住宅建設の開発を改善するには、国内の経験を活用すると共に外国の建設経験を研究する事が必要で、（中略）技術的にも建築的にも価値のある物は全て外国の経験から活用する必要がある（筆者訳）」^{文献15)}と強調され、1955年の後半から雑誌「ソ連の建築」で外国の建築家や作品が取り上げられていくようになった。

1955年モスクワの建築家中央会館にてソ連建築家連合理事会とソ連建築アカデミー歴史・理論研究所の主催により「発展途上のソビエト建築における革新と遺産の問題」をテーマとするプレ討論会が開催された^{文献16}。過剰な建築への批判が同様に行われたが、建築アカデミー会員のYu.ヤラロフは「資本主義の建築家や理論家が国家性を表現する必要性を理解し始めている（筆者訳）」^{文献17}と述べ「伝統を習得する際各文化の進歩的な特徴のみを使用する事が必要であり、（中略）客観的な存在条件（自然、気候条件、建築材料）、文化や芸術の様々な独創性は民族的特徴の保持に貢献し、（中略）標準設計の導入は民族性の排除ではなく、民族性は地元の建築資材を巧みに使用し気候条件を考慮して都市計画および計画技術で表現されるべき（筆者訳）」^{文献18}と主張した。

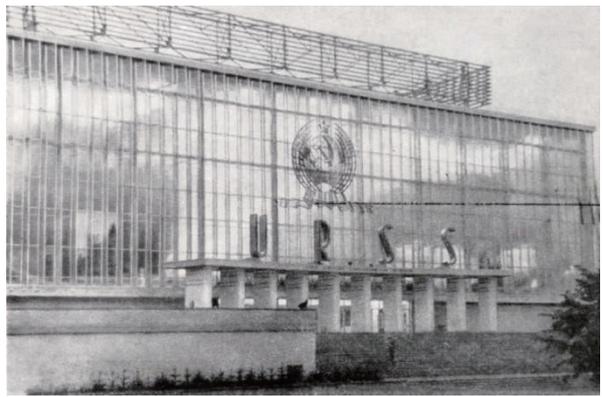
1956年2月CPSU第20回党大会が開催され第六次五カ年計画が決定されていたが、ソ連国民の物質的幸福と文化レベルの大幅な向上の達成が目標とされ^{文献19}、1956年から1957年にかけて標準設計による住宅建築と文化・公共建築への移行の完了や住宅、学校、病院、児童施設、ケータリング施設、映画館、保養所の新たな標準設計の作成が決定され^{文献20}、「プレハブ鉄筋コンクリート構造物および部品、軽量コンクリート、大型ブロック、プレハブユニットで構成される構造物の広範な使用による更なる工業化（筆者訳）」^{文献21}が決定された。

1956年K.アラビアンらソ連建築家連合の代表団はイギリス・ソ連文化関係協会から招待を受けイギリスの都市を視察し^{文献22}、1957年第3号の「ソ連の建築」誌上にてその報告を行い、誌上にハーロウ市（図1）やロンドン等の計画図や写真が掲載された。



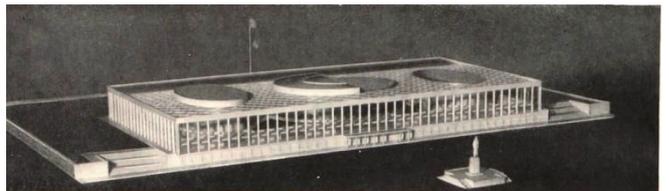
（図1）ハーロウ市の住宅地開発計画^{出典1}

1958年4月ベルギーのブリュッセルにて第30回万国博覧会が開催されたが、1956年7月に公開で行われたソ連館のコンペにてA.ボレツキー、A.T.ポリャンスキーの案が選ばれ^{文献23}、アルミやガラス、鉄骨トラス造の柱ケーブルによる吊り構造など現代的な材料・技術を用いて建設された（写真1）^{文献24}。



（写真1）ブリュッセル万国博覧会ソ連館，1958年^{出典2}

ブリュッセル万博でのソ連館以降1950年代後半からモスクワにてガラス張りの建築が出現し始めたが、「ソ連の建築」1958年第3号にて「建築におけるガラス」という記事が投稿され、「近年の外国の建築の経験を知ると建物にさまざまな種類の建築用ガラスが使用されている例があり、（中略）モダンな外観と最大限の表現力を与える（筆者訳）」と主張された^{文献25}。



（写真2）ソビエト宮殿ヴラソフ案，1958年^{出典3}



（図2）ソビエト宮殿ヴラソフ案，1958年^{出典4}

十月革命40周年に当たる1957年、ソビエト宮殿建設の構想が再び持ち上がり^{文献26}、1958年5月ソビエト宮殿のコンペが公開された。結果を受けて審査員から「20年代から30年代の構成主義の影響も簡単に見て取れる（筆者訳）」^{文献27}とされたが、A.ヴラソフのガラスのボックスに「島」状に会議室を配置した案（写真2、図2）に注目が集まり「ソビエト宮殿のイメージの構成と解釈に対する革新的なアプローチ（筆者訳）」^{文献28}と評価された。

1958年7月に第5回世界建築家連合会議がモスクワにて開催され、「都市の建設と再建 1945—1957」を主要

なテーマとして各国における第二次世界大戦後からの復興に関する報告が行われた^{文献29)}。都市計画やマイクロディストリクト、建設の工業化などが主要なプログラムであったが^{文献30)}この会議においてソ連の建築家は新しい衛星都市、ロンドン近郊のハーロウとストックホルム近郊のヴェリンビーに興味を示した^{文献31)}。

2.1 第六次五カ年計画時（1956-60）におけるアルマ・アタの都市計画と住宅開発

1954年にアルマ・アタにて中央アジアとカザフスタン共和国の建築家による創造的な会議が開催され^{文献32)}、カザフスタン建築家連合理事長のM.メンディクロフは「カザフスタンの詳細な計画と開発プロジェクトが提供されている都市は一つもなく、標準プロジェクトを都市建設に提供する状況は非常に悪い。アルマ・アタでは住宅建物はモスクワとレニングラードの設計団体の標準設計に従って建設されておりこれらのプロジェクトは地域特性を考慮しておらず、標準設計を改善し地元の設計組織を強化する必要がある（筆者訳）」と主張した^{文献33)}。

1957年7月 CPSU 中央委員会およびソ連閣僚理事会により「ソ連における住宅建設の発展について」が決議され、「連邦共和国の閣僚評議会、地方執行委員会に対し1958年から1960年の主要都市における住宅、文化、社会的共同体の建設計画を1957年12月までに承認するよう指示（筆者訳）」^{文献34)}、「ソ連国家建設委員会に対し工場用大型パネル住宅建設の開発と、1958年から1960年にかけての大型ブロック住宅建設の開発について（筆者訳）」^{文献35)}等が決定された。1957年は十月革命40周年に当たり、労働者の生活条件の改善と住宅の提供は最優先事項とされた^{文献36)}。

それに基づきカザフスタンにて1957年から1958年にかけてアルマ・アタの設計機関カズゴールストロイプロジェクトが1-308シリーズの住宅を開発し^{文献37)}、それらが新たな住宅地に建設されていった。

1950年に行われたレニングラードの設計機関レンギプロゴールによるアルマ・アタの都市計画は四半期ごとに低層住宅を建設することになっており^{文献38)}、住宅建設量の増加で1957年までには機能しなくなり^{文献39)}、1959年までに大量の住宅建設を行うためカズゴールストロイプロジェクトが住宅や文化施設の計画をまとめた^{文献40)}。

1958年にソ連の ASiA カザフスタン支部の V.ラビン、K.バピシェフの設計によりアルマ・アタの北側に位置する空港までの道路の北側地区の実験的プロジェクトが行われ、カザフスタンで初めてマイクロディストリクトにおける新たな方向性を取り入れたものであった^{文献41)}。

2.2 第六次五カ年計画時（1956-60）におけるアルマ・アタの公共建築

1957年10月アルマ・アタにて建築家たちの創造的な議論が開催されたが、前述のメンディクロフは「ソ連建築の実践と創造的方向性のいくつかの問題」というテーマで報告を行い「建築の国家的アイデンティティは伝統的な形式、特に装飾芸術によって決定され、（中略）中央アジア建築の伝統的な形式の使用（筆者訳）」を呼びかけ^{文献42)}、主任建築家のI.ペロツェルコフスキーは標準設計は市内中心部の開発には適正でなくこれまでの装飾的な建築を推奨したが^{文献43)}、参加者はこれを批判しN.リピンスキーは「殆どの建築家は地域的特性、地元材料の導入、国家的特性の研究を行っているが、未だに古典への回帰が起り共産党の指導に沿っていない（筆者訳）」^{文献44)}として批判した。しかし1959年にスターリン通り沿いに政治教育院（写真3）がA.レピックの設計によってレンガ造で建設され^{文献45)}、このような古典様式の建築が幾つか建設された。



（写真3）政治教育院，1959年^{出典5)}

3. 七カ年計画時（1959-1965）におけるソ連の政治・建築界の状況

1959年1月、第六次五カ年計画が終了する前に CPSU 中央委員会第21回党大会がモスクワで臨時に開催され1959年から1965年までの七カ年計画の決議が行われた。

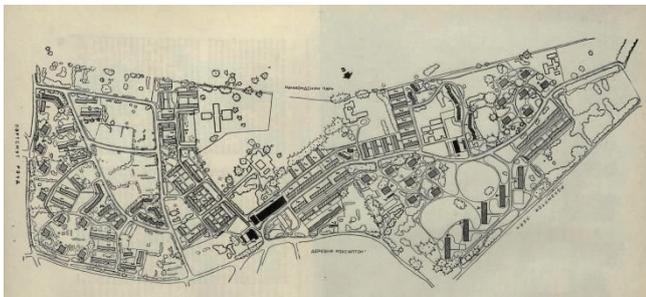
この七カ年の計画において共産主義の大規模な建設が計画され、「中等学校、寄宿学校、幼稚園の生徒数の増加、新築の病院の倍増、公共のケータリング施設のネットワークの拡大、図書館、クラブ、映画館の大幅な増加（筆者訳）」^{文献46)}が決議され「多くの公共建築物の建物はフレーム構造を使用して設計する必要がある（筆者訳）」^{文献47)}とされ、新たな標準設計の開発が求められた。

ソ連 ASiA 公共建築構造研究所所長の G.グラドフは1960年第1号の「ソ連の建築」誌上にて長文を投稿し、「都市の住宅地開発の抜本的改善には、先進的な経験の徹底的な研究を組織しそれを広く実践に導入する必要がある。（中略）住宅建物や日常サービス施設を含むマイクロディストリクトの創設、基本的なポイントに応じた建物の最適な向き、マイクロディストリクト内に庭園と

体育施設の創設、(筆者訳)」^{文献48)}等を住宅地の計画と開発に導入するよう義務付けた。また「建設されてきた住宅地は単調で退屈なものが多く、(中略)各マイクロディストリクトの構成と外観においてパネルの仕上げに色や質感の導入、住宅の入り口の工夫、様々な形のバルコニーやロジヤ、その他の細部を使用したりするなどの手段の使用(筆者訳)」^{文献49)}を主張した。

さらに「建築家や設計者は、現代的なロングスパン床、立体的な鉄筋コンクリートシェル、ケーブル支えの吊り構造に取り組む必要がある(筆者訳)」^{文献50)}とし、建築における新たな美的性の必要性を訴え、「美的問題の解決には建築家、技術者、彫刻家、芸術家のすべての力を結集する必要がある(筆者訳)」^{文献51)}と主張した。また現代の外国の進歩的な実践、特にル・コルビュジエ、アンドレイ・リュルサ、ルイジ・ネルヴィ、フェリックス・キャンデラを挙げ「資本主義建築の進歩的な技術は批判的に研究されるべきだ(筆者訳)」と促した^{文献52)}。

グアドフは「産業化が建築家の創造性を妨げるという意見があるがV.A.ヴェスニン、M.ギンズブルグ等の構成主義の作品は建築家、科学者、建設者が一つに統合された好例である(筆者訳)」^{文献53)}と述べ、前述の1957年1月のアルマ・アタでの創造的な議論を取り上げメンディクロフのような建築家を批判し、「建築の芸術的表現力は建設の工業化の条件の中で確保されなければならない(筆者訳)」^{文献54)}と主張した。



(図3) ローハンプトン住宅地マスタープラン^{出典6)}

1960年第5号の「ソ連の建築」誌上にてイギリスの住宅地開発の記事が投稿されマイクロディストリクト(図3)の紹介が行われた^{文献55)}。「混合構造の手法は1950年代のイギリスの住宅建設における興味深い例で、(中略)様々なタイプや階数が異なる住宅を建設すれば多くの住民を収容が出来、(中略)住宅単独のイメージではなく都市の複合体全体のアンサンブルを前面に押し出し、(中略)良好な自然環境の創出が必要(筆者訳)」^{文献56)}とされた。

1960年6月モスクワにて都市計画に関する全労働組合会議の第1回本会議が開催され、ソ連国家建設委員会のV.A.クチェレンコ委員長は「ソ連における都市計画の現

状と改善策について」の報告を行い、「社会生活の発展と労働者に対する文化のおよび日常的サービスの成長がソ連の都市形成にとって非常に重要であり、住宅地域の領域内でさまざまな公共建築物と有機的に関連して住宅を配置するシステムは大きな社会的重要性を持っており、(中略)文化のおよび公共サービスのすべての要素を備えた完全なマイクロディストリクトの建設への決定的な移行が必要(筆者訳)」^{文献57)}と主張した。

1960年4月はレーニン生誕90周年であり、前述のソビエト宮殿コンペの敷地の正面のレーニン丘にレーニンの記念碑の建設が決定され、コンペが行われた^{文献58)}。第二回コンペの議論においてソ連の記念碑彫刻の発展原則と手法、建築との統合、社会主義リアリズム芸術における必要な原則などが論議された^{文献59)}。

1960年第9号の「ソ連の建築」誌上にてソ連建築歴史・理論研究所のA.アイコンニコフは「一連の住宅開発は標準的な建物の繰り返しで単調なものであり、マイクロディストリクトなどの住宅形成の空間を自由に構成する方法に移行する必要がある。(中略)住宅地に自然の要素を取り込む事により表現力豊かな創造の機会が開けてくる(筆者訳)」^{文献60)}とした。またソビエト宮殿のヴラソフの案を取り上げ「自由計画の大胆な使用は進歩的なアイデアの基礎となり、個々の住宅内のセルを厳密に隔離する必要がある住宅用建物であっても、敷地内のスペースの『相互拡張』により内部空間が豊かになり、同じスペースをさまざまな要求に合わせて使用できる(筆者訳)」^{文献61)}とした。建物の外観デザインの向上について「太陽熱から建物を保護する問題に取り組んだブラジルの建築家や日除けのバルコニーを実現したスウェーデンの建築家(筆者訳)」を例に挙げ、外壁の色彩についても「大胆に色を用い建物のファサード全体のリズムカルな構造を豊かにすることも可能だ(筆者訳)」と述べた^{文献62)}。また「戦前戦後の『インターナショナルスタイル』が危機に陥り、資本主義諸国の進歩的な建築家、特にイギリス、スカンジナビア諸国、イタリア、メキシコ、日本は国家的で独創的な、同時に近代的な建築の探求が行われるようになった(筆者訳)」^{文献63)}とし、「社会的考え方や永久なる出来事についての物語を具体的に開示する必要がある場合、建築は彫刻や絵画などの美術と協力して機能する必要がある(筆者訳)」としてメキシコの社会主義リアリズムの芸術家A.シケイロスとD.リベラの名を挙げた^{文献64)}。

1960年10月ソビエト建築の創造的な方向性に関する会議がASiAソ連の建築・建設技術理論・歴史研究所とともにソ連建築家連合理事会の主催により、アルマ・アタを含む他の共和国の建築家の参加のもとモスクワの建築家中央会館で開催された^{文献65)}。研究所所長のK.A.イワノフは「建築様式における類型のおよび国家的特徴」に

ついでに言及し「ソビエト建築の芸術的方向性は、(中略)社会主義リアリズムの基本原則に基づいていなければならない、(中略)レーニンの記念碑のプロパガンダ計画はソ連の建築家、彫刻家、芸術家の緊密な協力と革新的な方向性に基づいて大きく発展するだろう(筆者訳)」^{文献66)}と述べ、「社会主義建築様式の特徴は様々な種類の建物(工業用、住宅用、公共用)、社会主義の国々の多様な国家条件など色々な方法で現れるべきだ(筆者訳)」^{文献67)}とし、「新しい物と古い物の間の闘争においてマルクス・レーニン主義の世界観を建築家が抱いていかねばならない(筆者訳)」^{文献68)}と主張した。

この会議の内容を受けて1961年5月に第三回ソ連建築家連合会議がモスクワにて開催され、「ソビエト国民が必要とする公共の建物や日常サービスの構造物(学校、寄宿学校、児童施設、食堂、病院など)の設計を建築家が行い、共産主義の原則に基づいた日常生活の再構築、非生産的な家庭からの女性の解放、社会的に役立つ仕事への女性の参加に貢献し、新しいタイプの住宅および公共建築物をさらに改善して広く導入し、文化・公共サービス機関、公共施設、ショッピングセンター、その他の協同組合の建物を統合的に配置するという進歩的な原則を導入する必要がある(筆者訳)」^{文献69)}と謳われた。

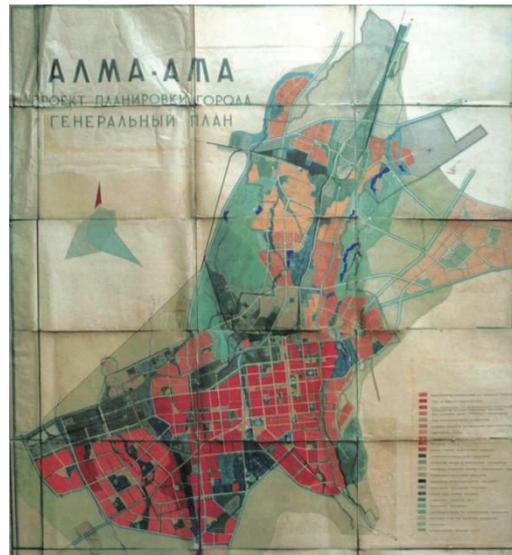
1961年10月モスクワにてCPSU第22回党大会が開催され、マルクス・レーニン主義のもと共産主義の建設が高らかに宣言された^{文献70)}。この会議において帝国主義者への敵対心を表明し^{文献71)}、「各共和国の進歩的な伝統を支持し、それを全ソビエト人民の財産とし、党はあらゆる方法で全ての国民に共通する共産主義建設者の新たな革命的伝統を発展させるだろう(筆者訳)」^{文献72)}とイデオロギーの強化が謳われた。

1962年2月モスクワにてソ連建築家組合とロシア芸術家組合のモスクワ支部による会議が開催され、建築と統合した記念碑的芸術の方法と可能性が検討された^{文献73)}。

「大量建設における記念碑的芸術は文化のおよび社会的施設を配置するシステムと連動すべきで、学校、幼稚園、映画館、その他の文化・日常的公共施設が位置する場所に記念碑的な芸術作品を設置する必要がある(筆者訳)」^{文献74)}とされ、大きなガラスを通して内部の作品を外部に表現する可能性についても言及された^{文献75)}。

3.1 七カ年計画時(1959-1965)におけるアルマ・アタの都市計画と住宅建築

1959年11月に第三回カザフスタン建築家会議がアルマ・アタで開催され都市計画と標準設計が議題として取り上げられた^{文献76)}。アルマ・アタ南部の開発において「住民のための包括的なサービスを備えたマイクロディストリクトが形成されず住宅の建物がグループ化される庭園の準備もなかった(筆者訳)」^{文献77)}と批判が挙げられた。

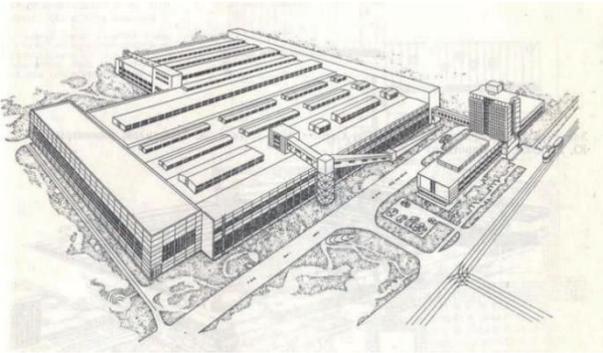


(図4) 1963年のアルマ・アタの都市計画図^{出典7)}

都市の急速な発展を受けてカザフスタン共産党中央委員会は新たな地区開発と住宅建設を計画したがカザフスタンの設計機関では能力不足であったため^{文献78)}、1960年から1963年にレンギプロゴールの建築家L.ベルトウソフ、G.ボボヴィッチによって新たな都市計画(図4)が作成され^{文献79)}、この計画には20~25年間の開発計画が織り込まれ西部地域への新たな開発と既存地区の再建が含まれており^{文献80)}、都市中心部の再建、高層建築の開発、三つの地区の開発が計画され、中心部の主要構造を形成するために行政・公共建物群のランダムな配置を取りやめ中心地の指定された範囲内に集中させるよう計画された^{文献81)}。また計画された三つの開発地区の一つは南北を貫くヴェスノフカ川から東側への中心地であった^{文献82)}。

CPSU第21回党大会の後、カザフスタン共産党第9回大会において住宅建設の産業基盤をさらに拡大するための措置が策定され1959年には大ブロック住宅の建設を開始し^{文献83)}、これまでの経験から部品から住宅を完成させて設置させるまでの全ての工程が可能な大型パネル住宅建設工場が必要となり1960年にカザフスタン共産党中央委員会は審議を申し入れ、アルマ・アタなどカザフスタン各地に住宅建設工場(図5)が建設されていった^{文献84)}。

モスクワのギプロストロイ産業研究所が1958年に開発した1-464シリーズの住宅がカズゴロストロイプロジェクトによって^{文献85)}地震帯と気候帯に適応した1-464ASシリーズが1960年から1961年にかけて開発され^{文献86)}、このシリーズがマイクロディストリクトに建設されていた^{文献87)}。アルマ・アタ住宅建設工場はキューバの建築業者が大型パネル住宅の建設を習得するのに多大な支援も行った^{文献88)}。

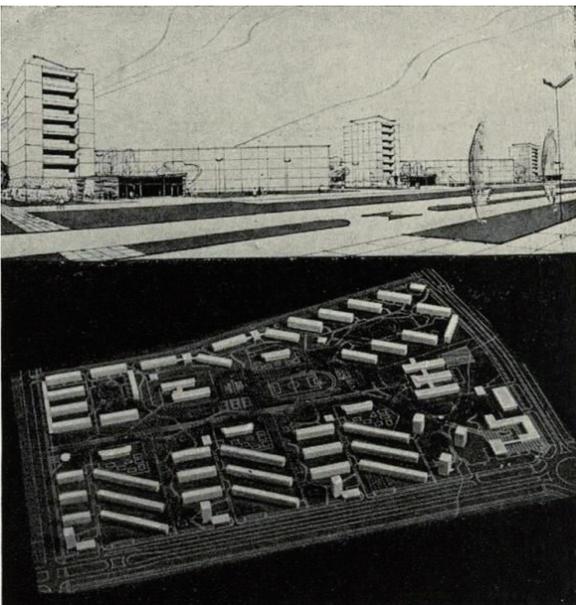


(図5) アルマ・アタ住宅建設工場, 1960年^{出典8)}



(写真4) マイクロディストリクト No.2 模型^{出典9)}

1961年からマイクロディストリクト No.1, No.2の建設が始まり^{文献89)}, 1962年にかけて西地区計画およびそのマイクロディストリクトの開発などが立案された^{文献90)}. このマイクロディストリクト No.2 (写真4) は住宅エリア, スポーツグラウンド, 学校, ショッピングセンターや公共センター, 子供向け施設を含むコミュニティセンターに分かれており, 保育施設の敷地は近隣の庭園に隣接された^{文献91)}.

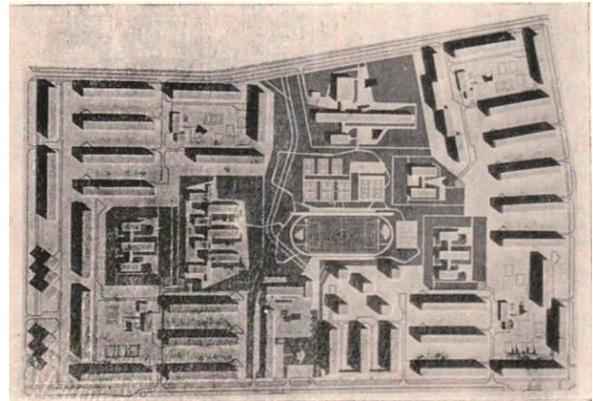


(図6) 実験的マイクロディストリクト案, 1962年^{出典10)}

マイクロディストリクト No.1, 3, 4は建物が連続して建てられたりと単調であったため^{文献92)}, 1961年にカザフスタン国家建設委員会とカザフスタン建築家連合は実験

的なマイクロディストリクトの全ソ連公開コンペを行い, A.ソコフとN.ヴェデネエフの案(図6)等が選出され実験的なマイクロディストリクト建設の基礎となった^{文献93)}. 1962年にはカザフスタンの条件に合わせ1-Kz464 ASシリーズが開発され^{文献94)}, マイクロディストリクトに建設されていった.

前述のマイクロディストリクトの実験的プロジェクトを受けて新たなマイクロディストリクト(図7)が建設されていき, 建物のレイアウトの単調さを避け高層住宅を取り入れた変化に富んだ構成となっていった.



(図7) マイクロディストリクト No.5^{出典11)}

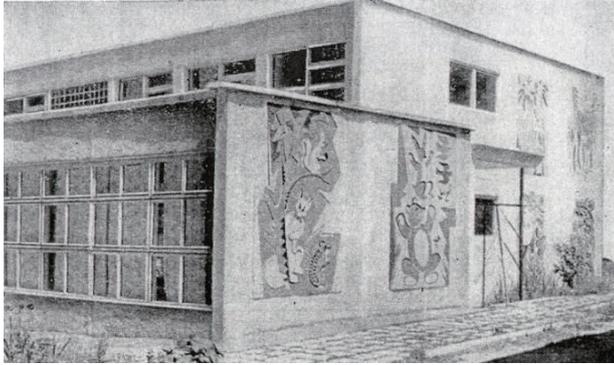
1959年カザフスタン最高評議会は「学校と生活との連携を強化し, カザフスタンの公教育制度をさらに発展させるための法律」を採択し, 新たな教育プログラムに沿った学校の標準設計が必要になった^{文献95)}.

前述の第21回党大会の決議に基づき1960年から1964年にかけてカズゴールストロイプロジェクトは公共建築用に2 Kz-200sシリーズの標準設計の開発を行い, 地震帯に対応した一般的な教育用の8年制の960人の生徒の学校用のフレームパネルによる^{文献96)}実験的建物が1964年にアルマ・アタに建設された^{文献97)}. 住宅建設工場で各部品を生産しているため, この2 Kz-200sシリーズは学校だけでなく幼稚園(写真5)やショッピング・公共センターの建物にも適用された^{文献98)}.

1962年にV.カツェフが開発したマイクロディストリクト内のショッピング・公共センター(写真6, 7)はクラブ, 食堂, 消費者サービスセンター, 郵便局, 電信機能を備えたものであり^{文献99)}, 以前の構成主義的な構成であったが, 学校やショッピング・公共センターの外壁にはモザイク画が取り付けられた.

本稿3で言及したモスクワでの都市計画会議において, 「ショッピング・公共のケータリングを住宅に設置する場合は運営と衛生条件を考慮して, 主要高速道路や広場の赤線沿いに住宅を建設して店舗などをその1階に設置するのが望ましい(筆者訳)」^{文献100)}とされ, 1964年に十月革命50周年通り沿いにYu.スクヴォルツォワの設計

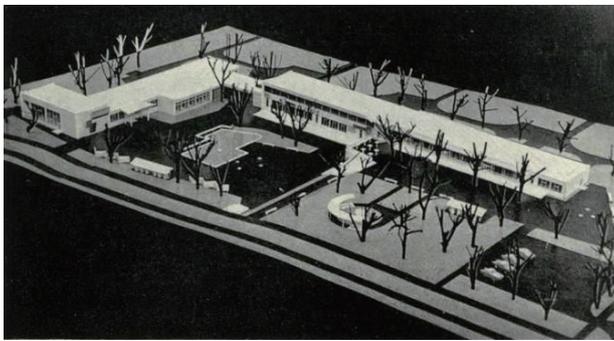
により建設された 1-Kz464AS シリーズの住宅^{文献101} (写真8) やマイクロディストリクト No.8 の横を通るプラウダ通りの住宅 (写真9) の1階部分にガラス張りの店舗が組み込まれ、外壁パネルには装飾や色彩が施された。



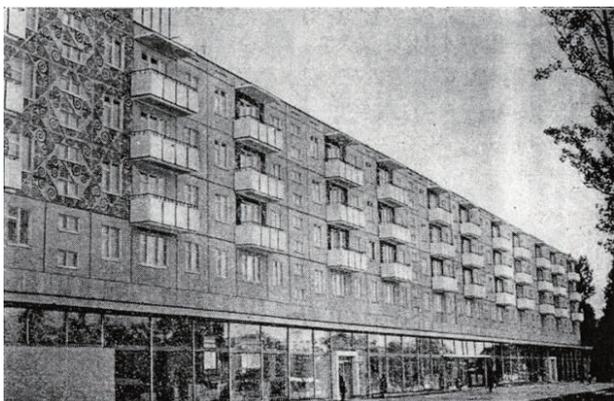
(写真5) 幼稚園・保育園, 1964年^{出典12}



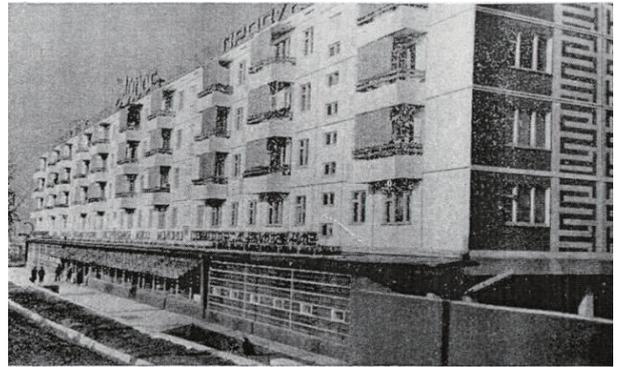
(写真6) ショッピング・公共センター, 1962年^{出典13}



(写真7) ショッピング・公共センター, 1962年^{出典14}



(写真8) 十月革命50周年通りの住宅, 1964年^{出典15}



(写真9) プラウダ通りの住宅^{出典16}

3.2 セカンド計画時 (1959-1965) におけるアルマ・アタの公共建築

本稿 2.1 で前述したように都市の中心部の開発が計画され共産主義通り^{注1}の開発がすすめられ、1961年にカズゴールストロイプロジェクトの五階建てのオフィスがN.リピンスキー、A.ネドヴィジン、V.イシェンコ的设计によって建設された。鉄筋コンクリート造の6mのグリッドフレーム^{文献102}で、ガラスのカーテンウォールによる新しい建築が創出された(写真10)。Yu.ヤラロフはこの建築を西洋建築の模倣とみなし、「従業員の快適さについては考慮されておらず、自然環境、気候条件、伝統とは関係なしに意図的にこのガラス箱が生み出された(筆者訳)」^{文献103}と非難し、共和国におけるこの建築に関する報道においてカザフスタンの建築がどうあるべきか激しい論争を巻き起こしたが^{文献104}、1962年5月にモスクワで開催された若手建築家の創造性を評価する全連合審査会において第2位を受賞し高い評価を受けた^{文献105}。

前述の第21回党大会において「公共給食のさらなる発展と改善について」が決議され「公共ケータリングの発展レベルは依然として国民のニーズの増大に遅れをとっている(筆者訳)」^{文献106}としてソ連建設大臣評議会国家委員会に対し「公共給食施設の建設のための標準プロジェクトを開発するよう(筆者訳)」指示することが決議された^{文献107}。

1961年リピンスキーとI.カルタシ的设计によりパンフィロフキロフ通りの交差点に円形のガラスで構成されたお土産ショップ(写真11)が建設されたが、ラジエーターは床下に配置されておりカザフスタンにおいて初めてのシェル構造による建築で^{文献108}、カザフスタンの美術批評家マリノフスカヤは円形プランと構造形態から遊牧民の伝統住居であるユルタと関連付けた^{文献109}。しかし当時ソ連ではガラス張りの円形のカフェが数多く建設され、ガラスによる透明性はフルシチョフ時代の「雪解け」政策の象徴でもあった^{文献110}。

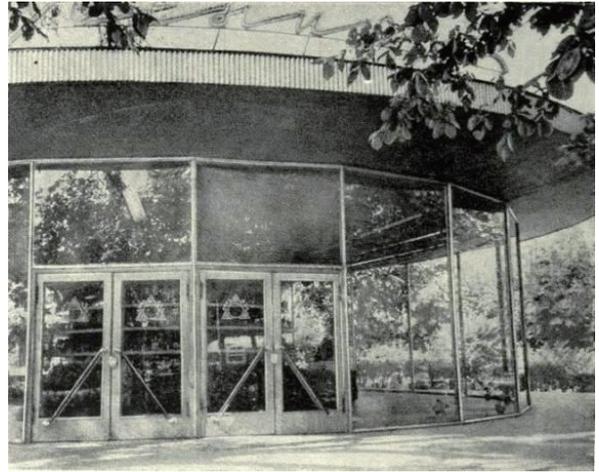
前述した1956年の第20回党大会において映画館や文化会館のネットワークの大幅な拡大が決定されたが、1956年から59年にかけて映画館の標準プロジェクトを

確立するために全ソ連連合による設計競技によって新しい標準プロジェクトが提案されていった^{文献111)}。

1960年に映画館「スプートニク」(写真12)がN.リピンスキー、V.グセフの設計により市内の南西部に建設された。この建物は三点ヒンジのプレハブ鉄筋コンクリート造のアーチで^{文献112)}、「リピンスキーは1956年にロシア語訳で出版されたイタリアの建築家ルイジ・ネルヴィの著書『Costruire correttamente』の影響で、公共建築に工業用形式を使用することを決意したのだろう(筆者訳)」と推測された^{文献113)}。この構造を基に二年後に別の場所で映画館「世界」、カザフスタン経済成果展覧会のパビリオン、中央スタジアムの屋内プールが建設されていった。

第20回党大会の決定を受けて1956年8月ソ連国家建設委員会は標準的なホテルの設計を対象とした非公開コンペを発表し、現代の産業建設の要件を満たす標準的なホテルの設計の始まりとなった^{文献114)}。

1960年にスターリン通りに480のベッドを備えたホテル・カザフスタン(写真13)がYu.スクリンスキー、A.タンブリディの標準設計に基づいて^{文献115)}アルマ・アタの主任建築家のE.ドヤトゥロフ、キム・ドセン、V.イシェンコの設計によって建設された。大型パネルによる^{文献116)}シンプルな近代建築の様式であり、南部地方特有の気候を考慮した日差しを避けるためのバルコニーが設けられ、建物正面は格子状の表現となっている。E.ドヤトゥロフ、キム・ドセンは共に初期の鉄筋コンクリートパネルによる住宅の標準設計の開発に携わっていた^{文献117)}。Yu.ヤラロフはこの建物を地域の気候条件の解釈の例として引用し、共和国の伝統を考慮したとして「中庭に設けられた池、ファサードの深いバルコニー、細部の装飾の彩色はカザフスタンの建築において特徴的なものである(筆者訳)」と述べた^{文献118)}。「Алма-Ата сегодня и завтра」に掲載された写真ではバルコニーの壁が「赤青黄」と着色が施されている。



(写真11) お土産ショップ, 1961年^{出典18)}



(写真12) 映画館「スプートニク」, 1960年^{出典19)}



(写真13) ホテル・カザフスタン, 1960年^{出典20)}



(写真10) カズゴールオフィス, 1961年^{出典17)}

1957年から60年にかけてトレビ通り沿いに映画館「アラタウ」(写真14)がE.ドヤトゥロフの設計により建設された。マリノフスカヤは「機能主義的な対象であるにもかかわらずこの時代の建築の古典主義的な方向性を堅持している(筆者訳)」^{文献119)}と評したが、むしろ中央アジアの伝統的な建築を現代技術をもって実現したデザインであり、タジキスタンの首都ドゥシャンベに1959年に建設された茶屋「ロハット」と建物前方部分のポリュームや柱と梁の構成において共通性がみられる。ドヤトゥロフは1957年頃高山のスケートリンクのプロジェクトにおいて古典様式のデザインを行っていた^{文献120)}。

1957年から62年にかけて共産主義通りにカザフ演劇上演用の800席のカザフ・ドラマ劇場(写真15)が標準

プロジェクトに従ってA.レピック、N.リピンスキー、V.カーツェフの設計により壁には灰色のタイルが貼られたレンガ造で建設され^{文献121}、切妻屋根の形式を採用しペディメントには芸術家E.シドルキンによるカザフの叙事詩のテーマを基にしたモザイクのパネルが取り付けられた^{文献122}。劇場の前にはカザフ族の反乱の伝説的指導者であるアマンゲルディ・イマノフの記念碑を携えたアマンゲルディ広場（写真16）が建設され^{文献123}、極めて古典的なアンサンブルとなっている。

「古典主義者レピックはモスクワの劇場設計機関ギプロテアトルの全体的な構成と計画の推奨を順守し、リピンスキーの1936年の寄宿学校のプロジェクトがプロトタイプに近い（筆者訳）」^{文献124}とされ、「ペディメントをレリーフで埋めることを提案し、芸術家のエフゲニー・シドルキンとオレグ・ボゴモロフを招待したのもおそらくカーツェフだろう（筆者訳）」^{文献125}と推測された。



（写真14）映画館「アラタウ」，1960年^{出典21}



（写真15）カザフ・ドラマ劇場，1962年^{出典22}



（写真16）アマンゲルディ広場^{出典23}

学校とは別に「新しい人間を形成するために重要な役割を果たす課外保育施設である（筆者訳）」^{文献126}パイオニア宮殿（写真17）が1960年から1962年にかけてB.マルコフ、キム・ドセンの設計によってカーニン通りとシーフリナ通りの交差点に建設された。



（写真17）パイオニア宮殿，1962年^{出典24}

本稿3にて言及した1961年の第22回党大会において「思想、育成、教育、科学、文化の分野における党の任務において共産主義のイデオロギー強化（筆者訳）」^{文献127}、「文化の物質的基盤の更なる強化のため図書館、講義室、読書室、劇場、文化の家、クラブ、映画館のネットワーク増加（筆者訳）」が決定された^{文献128}。

1964年に映画館「ツェリニー」（写真18）がカーニン通りとマサンチ通りのT字交差点にS.ローゼンブリュームの標準設計に基づき^{文献129}V.カーツェフの設計によって建設された。前面にガラスサッシュが施されアルマ・アタの公共施設において初めて外部に対して開放的な内部空間が形成された^{文献130}。S.ローゼンブリュームはウズベキスタンで1962年にI-464Aシリーズのパネルバージョンを開発していた^{文献131}。ホワイトエの装飾パネルはシドルキンによるもので夜間はガラスを通して内部空間が外部から見えるようになっていた（写真19）。



（写真18）映画館「ツェリニー」，1964年^{出典25}



(写真 19) 映画館「ツェリニー」夜景, 1964 年^{出典 26)}

1965 年にアルマ・アタ住宅建設工場のクラブ(写真 20)が中心地から離れた西側アバイ通り沿いに建設されたが、カズゴールストロイプロジェクトが開発したクラブの標準設計が適用された^{文献 132)}。二階前面部はガラス張りで垂直ルーバーが設けられており 1920 年代の構成主義的建築だが、「1958 年 4 月ソ連国家建設委員会とソ連建築家組合が主催した標準クラブの設計に関する全組合公開コンペの結果がまとめられ、(中略)気候地域によって 4 種類に分けて標準設計を作成することが求められ、(中略)幾つかの案が受賞し外国の建築雑誌で見られる建物と似ていることが非難されたが、(中略)経済的にコンパクトでこれまでの都市計画の実践を鑑みて対称性の構成が推奨された(筆者訳)」^{文献 133)}。また構成主義時代のクラブ建築には良い点が数多くあるとしその重要性が謳われた^{文献 134)}。受賞案の一つであるモスクワの Y. アルント等による「オープンブック(知識)」(図 8)がテーマのプロジェクト^{文献 135)}がアルマ・アタ住宅建設工場のクラブに非常に似ており、このプロジェクトが標準設計として採用された可能性がある。



(写真 20) 住宅建設工場のクラブ, 1965 年^{出典 27)}



(図 8) オープンブック立面図, 1958 年^{出典 28)}

本稿 2 で言及した 1955 年 11 月の「設計と建設における過剰の排除」の決定を受けてモスクワの医療機関専門の設計機関ギプロズドラフは 1956 年に市立病院のための新しい標準設計に着手し、チェコスロバキアやスウェーデン、フィンランド等の外国の病院設計技術による建設コストの削減が導入され^{文献 136)}、出来るだけ日当たりのよい平面計画が必要とされた^{文献 137)}。病院の細分化により医療の質が下がり医療に対するコストが上ったことから 1960 年 1 月 CPSU 中央委員会およびソ連閣僚理事会によって「ソ連国民の医療と健康保護をさらに改善するための措置について」が決議され大規模の病院建設が必要とされた^{文献 138)}。

1964 年に I. パキドフの設計による大祖国戦争障害者病院(写真 21)がサツパエフ通りとフルマノフ通りの交差点に、M. グラと A. ラシドフの設計による児童臨床病院(写真 22)がバイセトフーシェフチェンコ通りの交差点に建設された。大祖国戦争障害者病院が標準設計に基づいて設計が行われたのか明らかではないがホテル・カザフスタンのようにファサード上のグリッドの格子パネルが日差しを遮り、児童臨床病院においては日差しを避けるためのルーバーとサンスクリーンが設けられた。



(写真 21) 大祖国戦争障害者病院 1964 年^{出典 29)}



(写真 22) 児童臨床病院^{出典 30)}

4. おわりに

4.1 まとめ

大祖国戦争からの復興のためソ連では新たに建物が建設されていたが 1952 年に第 19 回 CPSU 党大会が開催され第五次五カ年計画において工業化が推進され、標準設計の導入が決定され、これまでの古典的で過剰な建築はコスト削減のため批判されていた。

1953年にフルシチョフは1954年の全ソ連建設業者会議にて過剰な建築が工業化を妨げる原因となっていると批判し、過剰な建築は形式主義でありレーニンにおける「二つの文化」を軽視しているとして、ソ連の建築アカデミーを批判し構成主義を含む過去の建築遺産と外国の最先端の技術を批判的に利用するよう指示した。

1955年には「更なる工業化、品質の向上及び建設費の削減のための措置について」、「設計と建設における過剰の排除」が決議され過剰な建築の排除が建物建設の拡大と都市改良や造園の拡大につながると謳われ、同年開催された第二回全ソ連建築家会議において、外国の経験を活用しながら工業化の建築における新たな社会主義リアリズムが目指された。

1956年にソ連建築家連合の代表団がイギリスを訪問し1957年の建築雑誌にハーロウ市の計画などの報告が行われたが、第六次五カ年計画中の1957年「ソ連における住宅建設の発展について」の決議において大型パネル住宅開発とそれによる標準設計の住宅建設が決定され、カザフスタンのアルマ・アタにおいても設計機関のカズゴールストロイプロジェクトによって1-308シリーズが開発され、カズゴールストロイプロジェクトが計画をまとめたが、1958年にASiaカザフスタン支部が北側地区の実験的プロジェクトを提案し、カザフスタンで初めて新たなマイクロディストリクトが形成された。

1957年アルマ・アタにて建築家による創造的会議が開催されたがメンディクロフは中央アジア建築の伝統性を取り入れた工業建築の開発を提案し、多くの反発を受けたが、1959年に建設された政治教育院などレンガ造による古典様式の建築はまだ建設されていった。

1958年に第5回世界建築家連合会議がモスクワにて開催されマイクロディストリクトに関する議論が行われたが、1959年の第三回カザフスタン建築家会議においてもその欠陥が指摘され、1960年から63年にかけてレンギプロゴールによって都市計画が行われ、都市中心部の再建、西部地区の開発が計画され、新たなマイクロディストリクトの計画が行われていった。

1959年の第21回党大会の後カザフスタンにおいて住宅建設の拡大のため1962年に住宅建設工場が建設され、新たに開発された1-464ASシリーズがマイクロディストリクトに建設されていった。グラドフやイコンニコフが指摘したように初期のマイクロディストリクトの構成は単調であったため、1962年にコンペが行われ高層棟や住宅等の斜めの配置、運動場や公共センターなど1960年の都市計画会議の決定、グラドフの建築雑誌1960年第1号の誌上での主張やイギリスのマイクロディストリクトにおける「混合構造」を取り入れた案がその後のマイクロディストリクトの基礎となり新たな構成のマイクロディストリクトが形成されていった。

1958年のブリュッセル万博ソ連館やソビエト宮殿コンペ案で現代的なガラス張りの建築が建設・提案され、1958年第3号の建築雑誌上にて「建築におけるガラス」という記事が投稿され建築表現における新たな可能性としてのガラスの使用が推奨され、アルマ・アタの公共建築においてもこの傾向は現れ、1961年のカズゴールストロイプロジェクトのオフィスがガラス張りの鉄筋コンクリートによるラーメン構造で建設された。

1960年第1号の誌上にてグラドフは新たな技術としてコンクリートシェル構造を推奨しルイジ・ネルヴィ等の名を挙げたが、1961年にカザフスタンでは初のシェル構造によるお土産ショップが建設された。

またこれらの設計者であったリピンスキーは前年の1960年に三点ヒンジのプレハブ鉄筋コンクリート造のアーチを適用した映画館「スプートニク」を設計し同様の構造を標準とした設計を行っていった。

1960年標準設計に基づいて大型パネルによるホテル・カザフスタンが建設されたが、1955年のモスクワでの討論会でヤラロフによって主張された地域性が取り入れられ、ファサードには日差しを避けるために大型パネルによる格子状のデザインが行われ、色彩も施された。

1960年に映画館「アラタウ」が伝統様式を現代的に抽象化したような建築が建設されたが、1960年4月にレーニン生誕90周年を記念してレーニン記念碑のコンペが行われ記念碑彫刻や建築との統合が議論され、社会主義リアリズムのイデオロギーが再び問われ始めた。

1961年のCPSU第22回党大会においてマルクス・レーニン主義に基づいたイデオロギーが強化されていき、1962年にはカザフ・ドラマ劇場が標準設計に基づいてレンガ造で建設されたが、1960年にイコンニコフがやイワノフが述べ、1962年のソ連建築家組合とロシア連邦芸術家組合のモスクワ支部の会議でも建物と芸術の統合が謳われたように、シドルキンによって作成されたカザフの叙事詩を基にしたモザイクパネルが取り付けられ、新たな社会主義リアリズムが形成されていった。また劇場前にはカザフを代表する偉人の記念碑が建立された。

第21回党大会の決議に基づきフレーム構造による標準設計に基づいた学校や文化・公共サービス施設がマイクロディストリクト内にも併設されていったが、特にカーツェフが設計した公共センターは構成主義的な建築であり、学校や公共センターには外壁にモザイク画が施された。また1960年のモスクワでの都市計画会議で決定されたようにマイクロディストリクト周辺部の大通り沿いの住宅の一階には店舗が組み込まれ、イコンニコフが言及したように単調さの解消のためにそれらの住宅の外壁パネルには装飾や色彩が施されていった。

1964年には標準設計に基づいて映画館「ツェリニー」が建設されたが、前述の1962年の会議においてガラスを

通して内部の記念碑的芸術作品を外部に表現する可能性が謳われており、アルマ・アタで初めて内部の芸術作品がガラスの透明性を通じて外部に表現された。

クラブ建築の標準設計のコンペにおいて構成主義時代のクラブ建築を現代的に活用するよう求められ、1965年に住宅建設工場のクラブが標準設計に基づいて建設されたが、前面のガラス部分には垂直ルーバーが設けられた。これはイコンニコフが述べたように建物の外観向上と太陽熱からの保護のためにブラジルの建築が推奨されたが、「ソ連の建築」1960年第12号にて建築家のY. スレイマノフによる「太陽放射から建物を守る方法（海外の経験から得た資料に基づく）」という記事が投稿され^{文献139}）中近東やアフリカ、ラテンアメリカの事例が紹介され、その手法が住宅建設工場のクラブに適用された。

1960年の決議に伴いカザフスタンにおいても大規模な病院が建設されていったが、1964年に建設された大祖国戦争障害者病院はギプロズドラフの決定に従い横長に広く展開され強い日差しを防ぐためにホテル・カザフスタンと同様の手法が適用された。また児童臨床病院においても、イコンニコフが推奨したように窓上部に上下連結された水平ルーバーと紋様装飾的なサンスクリーンが適用された。これらの病院は標準設計に基づいて建設されたと思われるがこの辺りについては分かっていない。児童臨床病院においてはガラスのピラミッド状のトップライトが写真から確認されるがおそらくアルマ・アタにおいて初のピラミッド型トップライトと考えられる。

このように第六次五ヶ年計画・七ヶ年計画において共産主義建設を目的とした建築の工業化・標準化に伴い外国の手法・技術が導入され、カザフスタンにおいても同様に展開されていった。また構成主義を含む過去の遺産も新たな技術と共に同様に活用され、1960年以降カザフスタンにおいてもガラスが新たな材料として持ち入れられ建築における透明性、内部と外部の連続性を作り出した。しかし住宅建築や公共建築においては単調さを解消するため外壁にモザイクや色彩を取り入れ、カザフスタンの気候を考慮した日除けのルーバーやサンスクリーンが導入されていき、建築における新たな社会主義リアリズムが外国の最先端の技術と共に構築されていき、1954年にフルシチョフが全ソ連建設業者会議にて発言したレーニンの「二つの文化」はこのように形成されていった。

4.2 今後の課題

1958年のマクロディストリクトの実験的プロジェクトはソ連の他の都市やイギリスのマクロディストリクトとどのような関連性、また異なった点があったのか。

1954年のアルマ・アタでの創造的会議、1957年のアルマ・アタでの創造的議論、1959年の第三回カザフスタン建築家会議がそれぞれ行われたがどのような議論が行わ

れたのか。筆者は第三回カザフスタン建築家会議の資料がカザフスタンのアーカイブセンターにはなくモスクワのアーカイブセンターに保管されているのを確認している。この一次資料を基に会議でどのような決定が行われその後のカザフスタンの建築政策がどのようなものであったのかより把握できる。

1955年の「発展途上のソビエト建築における革新と遺産の問題」での討論会におけるヤラロフの「地域性」に関する発言から、ギーディオンの「現代建築の発展」がおそらく当時ソ連建築理論・歴史研究所に入っていたと考えられ^{文献140}、それに触発されての発言と思われる。当時ソ連にどのような外国の書籍が輸入され、ソ連の建築家が外国に旅行に訪れたかについては2016年のO.ヤクシェンコの論文^{文献141}）やチェプクノバ等の著書に詳しく述べられているが^{文献142}、1960年のホテル・カザフスタンはその地域性が考慮された建築で、ヤラロフは建物細部の着色はカザフスタン特有のものとしたが、本稿3.2での写真13では「赤青黄」が用いられ、これはむしろル・コルビュジェのユニテ・ダビタシオンを参照したのではないかと考えられる。ユニテ・ダビタシオンは「ソ連の建築」1958年第11号で紹介されており^{文献143}）その可能性は高いと考えられる。

1961年に円形ガラス張りのお土産ショップが建設されマリノフスカヤはユルタと関連付けたが、むしろネルヴィのレストランが参照されたのではないかと考えられる。ネルヴィのレストランは「ソ連の建築」1957年第12号で紹介されているが^{文献144}）構造が若干異なってリブ付きの構造であり、「ソ連の建築」1960年第10号にて丹下健三の広島の子ども図書館が断面図付きで紹介されている事から^{文献145}）、形態はネルヴィ、構造は丹下の建築が参照された可能性は高い。またソ連でガラス張りが用いられるようになった背景にはギーディオンの「空間・時間・建築」の論考からの影響の可能性も考えられる^{注2}）。

1962年にコンペにて選ばれたアルマ・アタのマクロディストリクト案は都市計画会議での決定事項やイギリスの計画における「混合構造」をどのように取り入れていったのか。また1960年にイコンニコフが言及した「空間を自由に構成する方法」、「相互拡張」はヴラソフのソビエト宮殿コンペ案から触発されたものと考えられるが、同時にミース・ファン・デル・ローエの「ユニバーサル・スペース」の概念やギーディオンの影響も考えられる。マクロディストリクトの計画にこれらの外国の概念がどのように取り込まれていったのか。

1960年のレーニン生誕90周年以降イデオロギーが強化され、第22回党大会では帝国主義への批判も行われ、その理由にアメリカとの対立が考えられるが、ソ連やカザフスタンの建築界にどのような影響を与えていったのか、イデオロギーに基づいた記念碑の建立にギーディオ

ンの「現代建築の発展」の影響はあったのか。また偉人などの記念碑がアルマ・アタにどのように建立され、通り名も変更されていったのか。

学校や公共建築にモザイクなどが取り付けられていたが、そのテーマにどのようなイデオロギーが反映されていたのか。またマイクロディストリクトの住宅の外壁にモザイクや着色された装飾的なパネルが取り付けられたが、カザフスタンの叙事詩や伝統的な文様とどのような関連性があったのか。

フルシチョフはそれまでの古典様式の建築を形式主義と非難して構成主義の合理的発展を促し、過去の遺産と外国の経験の批判的利用に基づいたレーニンの「二つの文化」を推進するよう主張したが、カザフスタンの建築において「二つの文化」が具体的にどのように創出され展開していったのか、さらに詳しく分析する必要がある。

参考文献

- 1) 諸喜田真：カザフスタンのアルマトイ市の第一次・第二次五カ年計画におけるソビエト政権下の都市計画・建築様式に関する研究動向と課題：ソビエト・カザフスタンの一般建築史 その1, 九州大学大学院人間環境学研究院紀要 第46号, pp. 39-40, 2024年7月
- 2) Курбатов В. В. : Советская архитектура (ソ連の建築), Просвещение, p.72, 1988
- 3) Коммунистическая партия Советского Союза : Коммунистическая партия Советского Союза в резолюциях и решениях съездов, конференций и пленумов ЦК (1898-1986) ТОМ ВОСЬМОЙ (ソ連共産党中央委員会の大会, 会議, プレナムの決議と決定 (1898-1986) 第8巻), Политиздат, p.262, 1985
- 4) Ibid., p.269
- 5) Архитектура СССР 1952 №.12 (ソ連の建築 1952 №.12), Стройиздат, p.2, 1952
- 6) Архитектура СССР 1955 №.2, Стройиздат, p.7, 1955
- 7) Ibid., p.7
- 8) Ibid., p.7
- 9) Архитектура СССР 1961 №.8, Стройиздат, p.51, 1961
- 10) Архитектура СССР 1955 №.5, Стройиздат, p.2, 1955
- 11) Глаудинов Б. : Архитектура Советского Казахстана (ソビエト・カザフスタンの建築), Стройиздат, p.57, 1974
- 12) Коммунистическая партия Советского Союза : op.cit., ТОМ ДЕВЯТЫЙ (第9巻), Политиздат, p.533, 1985
- 13) Ibid., p.534
- 14) Архитектура СССР 1956 №.1, Стройиздат, p.4, 1956
- 15) Архитектура СССР 1955 №.12, Стройиздат, p.5, 1955
- 16) Архитектура СССР 1956 №.1, Стройиздат, p.46, 1956
- 17) Ibid., p.47
- 18) Ibid., p.47
- 19) Архитектура СССР 1956 №.3, Стройиздат, p.1, 1956
- 20) Ibid., p.2
- 21) Коммунистическая партия Советского Союза : op.cit., ТОМ ДЕВЯТЫЙ, p.64
- 22) Архитектура СССР 1957 №.3, Стройиздат, p.47, 1957
- 23) Архитектура СССР 1957 №.2, Стройиздат, p.43, 1957
- 24) Архитектура СССР 1958 №.5, Стройиздат, pp.38-41, 1958
- 25) Архитектура СССР 1958 №.3, Стройиздат, pp.30-34, 1958
- 26) Чепкунова И. В. Стрельцова П. Ю. Кокорина К. А. Аметова М. Р. : Пионеры советского модернизма. Архитектура и градостроительство (ソビエトモダニズムの先駆者. 建築と都市計画), Кучково поле Музеон, p.21, 2020
- 27) Архитектура СССР 1958 №.8, Стройиздат, p.13, 1958
- 28) Ibid., p.14
- 29) Архитектура СССР 1958 №.7, Стройиздат, p.1, 1958
- 30) Ibid., p.2
- 31) Ibid., p.7
- 32) Архитектура СССР 1954 №.7, Стройиздат, p.39, 1954
- 33) Ibid., p.40
- 34) Архитектура СССР 1957 №.9, Стройиздат, p.3, 1957
- 35) Ibid., p.4
- 36) Архитектура СССР 1957 №.11, Стройиздат, p.1, 1957
- 37) Глаудинов Б. : op.cit., p.72
- 38) Дуйсенов Е. Д. : Алма-Ата сегодня и завтра, Казгосиздат, p.161, 1963
- 39) Глаудинов Б. А., Сейдалин М. Г., Карпыков А. С. : Архитектура Советского Казахстана (ソビエト・カザフスタンの建築), Стройиздат, pp.117-118, April, 1987
- 40) Ibid., p.118
- 41) Глаудинов Б. : op.cit., p.61
- 42) Архитектура СССР 1960 №.1, Стройиздат, p.5, 1960
- 43) Ibid., p.58
- 44) Ibid., p.58
- 45) Нурпеисов М. М., Малиновская Е. Г.-Рюнтю, Прокурин В. Н. : СВОД памятников истории и культуры г.Алматы (年代記 アルマトイの歴史・文化的記念碑), Казак энциклопедиясы, p.277, 2006
- 46) Архитектура СССР 1959 №.10, Стройиздат, p.2, 1959
- 47) Ibid., p.4
- 48) Архитектура СССР 1960 №.1, Стройиздат, p.3, 1960
- 49) Ibid., p.4
- 50) Ibid., p.4
- 51) Ibid., p.5
- 52) Ibid., p.6
- 53) Ibid., p.6

- 54) Ibid., p.6
- 55) Архитектура СССР 1960 №.5, Стройиздат, pp.47-52, 1960
- 56) Ibid., pp.47-52
- 57) Архитектура СССР 1960 №.8, Стройиздат, p.3, 1960
- 58) Архитектура СССР 1960 №.4, Стройиздат, p.5, 1960
- 59) Ibid., p.17
- 60) Архитектура СССР 1960 №.9, Стройиздат, p.4, 1960
- 61) Ibid., p.4
- 62) Ibid., p.4
- 63) Ibid., p.5
- 64) Ibid., p.5
- 65) Архитектура СССР 1961 №.1, Стройиздат, p.49, 1961
- 66) Ibid., p.51
- 67) Ibid., p.54
- 68) Ibid., p.54
- 69) Архитектура СССР 1961 №.6, Стройиздат, p.4, 1961
- 70) Коммунистическая партия Советского Союза : op.cit., ТОМ ДЕСЯТЫЙ (第 10 卷) , p.185
- 71) Архитектура СССР 1961 №.12, Стройиздат, p.2, 1961
- 72) Коммунистическая партия Советского Союза : op.cit., ТОМ ДЕСЯТЫЙ, p.165
- 73) Архитектура СССР 1962 №.5, Стройиздат, p.27, 1962
- 74) Ibid., p.27
- 75) Ibid., p.28
- 76) Архитектура СССР 1960 №.1, Стройиздат, p.63, 1960
- 77) Ibid., p.63
- 78) Абсадыков А. А. : Развитие жилищного строительства в Казахстане, Алма-Ата: Казахстан, p.97, 1980
- 79) Глаудинов Б. : op.cit., p.62
- 80) Капанов А. К., Баймагамбетов С. К. : Алматы: архитектура и градостроительство (アルマトイ : 建築と都市計画) , DIDAR Publishing Co., p.144, 1998
- 81) Глаудинов Б. : op.cit., p.62
- 82) Капанов А. К., Баймагамбетов С. К. : op.cit., p.144
- 83) Абсадыков А.А. : op.cit., p.91
- 84) Ibid., pp.94-95
- 85) Архитектура СССР 1962 №.9, Стройиздат, p.27, 1962
- 86) Глаудинов Б. : op.cit., p.73
- 87) Архитектура СССР 1962 №.9, Стройиздат, p.27, 1962
- 88) Абсадыков А. А. : op.cit., pp.107-108
- 89) Бекримжан Глаудинов : Развитие архитектуры Казахстана в эпоху социализма (社会主義時代のカザフスタンにおける建築の発展) , Казахской головной архитектурно-строительной академии, p.150, 2019
- 90) Абсадыков А. А. : op.cit., p.162
- 91) Ibid., p.165
- 92) Архитектура СССР 1966 №.7, Стройиздат, p.12, 1966
- 93) Архитектура СССР 1962 №.9, Стройиздат, p.9, 1962
- 94) Бекримжан Глаудинов : op.cit., p.203
- 95) Глаудинов Б. : op.cit., p.79
- 96) Архитектура СССР 1966 №.3, Стройиздат, p.7, 1966
- 97) Глаудинов Б. : op.cit., p.80
- 98) Ibid., p.80
- 99) Архитектура СССР 1962 №.9, Стройиздат, p.27, 1962
- 100) Архитектура СССР 1960 №.8, Стройиздат, p.3, 1960
- 101) Глаудинов Б. : op.cit., p.104
- 102) Ibid., p.85
- 103) Самойлов К. И. :Архитектура Казахстана XX века (Развитие архитектурно-художественных форм) (20世紀のカザフスタンの建築 (建築と芸術形式の発展)) , М-Ари, p.416, 2004
- 104) Нурпеисов М. М., Малиновская Е. Г.-Рюнтю, Проскурин В. Н. : op.cit., p.170
- 105) Архитектура СССР 1962 №.9, Стройиздат, p.27, 1962
- 106) Коммунистическая партия Советского Союза : op.cit., ТОМ ДЕВЯТЫЙ, p.413
- 107) Ibid., p.418
- 108) Нурпеисов М. М., Малиновская Е. Г.-Рюнтю, Проскурин В. Н. : op.cit., p.280
- 109) Ibid., p.280
- 110) Броневицкая А. ,Малинин Н., Пальмин Ю. : МОСКВА : Архитектура Советского Модернизма (モスクワ : ソビエトモダニズムの建築) , Музей современного искусства «Гараж», p.320, 2016
- 111) Глаудинов Б. : op.cit., p.83
- 112) Нурпеисов М. М., Малиновская Е. Г.-Рюнтю, Проскурин В. Н. : op.cit., p.284
- 113) Броневицкая А., Малинин Н. : АЛМА-АТА : Архитектура Советского Модернизма 1955-1991, Музей современного искусства «Гараж», p.60, 2018
- 114) Архитектура СССР 1957 №.6, Стройиздат, p.29, 1957
- 115) Нурпеисов М. М., Малиновская Е. Г.-Рюнтю, Проскурин В.Н. : op.cit., p.239
- 116) Архитектура СССР 1961 №.6, Стройиздат, p.9, 1961
- 117) Архитектура СССР 1957 №.7, Стройиздат, pp.24-27, 1957
- 118) Яралов Ю. : Национальное и интернациональное в архитектуре, Советская архитектура №.17 (建築における国家と国際, ソビエト建築 No.17) , Сборник Союза архитекторов СССР, p.103, 1965
- 119) Нурпеисов М. М., Малиновская Е. Г.-Рюнтю, Проскурин В. Н. : op.cit., p.281
- 120) Архитектура СССР 1957 №.7, Стройиздат, p.25, 1957
- 121) Нурпеисов М. М., Малиновская Е. Г.-Рюнтю, Проскурин В. Н. : op.cit., p.298

- 122) Ibid., p.298
- 123) Дуйсенов Е. Д. : op.cit., p.124
- 124) Броницкая А., Калинин Н. : op.cit., p.41
- 125) Ibid., p.41
- 126) Дуйсенов Е. Д. : op.cit., p.103
- 127) Коммунистическая партия Советского Союза : op.cit.,
ТОМ ДЕСЯТЫЙ, pp.166-167
- 128) Ibid., p.177
- 129) Нурпеисов М. М., Малиновская Е. Г.-Рюнтю,
Проскурин В. Н. : op.cit., p.284
- 130) Броницкая А., Калинин Н. : op.cit., pp.43-44
- 131) Кадырова Т. Ф. : Архитектура Советской
Узбекистана (ソビエトウズベキスタンの建築) ,
Стройиздат, p.166, 1987
- 132) Архитектура СССР 1969 №.4, Стройиздат, p.34, 1969
- 133) Архитектура СССР 1958 №.9, Стройиздат, pp.37-45,
1958
- 134) Ibid., p.46
- 135) Ibid., pp.37-39
- 136) Архитектура СССР 1956 №.2, Стройиздат, p.11, 1956
- 137) Архитектура СССР 1956 №.8, Стройиздат, p.4, 1956
- 138) Бекримжан Глаудинов : op.cit., p.254
- 139) Архитектура СССР 1960 №.12, Стройиздат, pp.36-42,
1960
- 140) Архитектура СССР 1961 №.5, Стройиздат, p.57, 1961
- 141) Якушенко О. : Советская архитектура и Запад :
Открытие и ассимиляция западного опыта в советской
архитектуре конца 1950 - х - 1960 - х годов (ソビエト建
築と西洋: 1950年代後半から 1960年代のソビエト
建築における西洋経験の発見と同化) , Laboratorium.
2016. №8 (2)
- 142) Стрельцова П.: Советская архитектурная оттепель и
мировой контекст (ソ連建築の雪解けと世界的背景) ,
Чепкунова И. В. Стрельцова П. Ю. Кокорина К. А.
Аметова М. Р. : Пионеры советского модернизма.
Архитектура и градостроительство, Кучково поле
Музеон, pp.33-38, 2020
- 143) Архитектура СССР 1958 №.11, Стройиздат, p.50,
1958
- 144) Архитектура СССР 1957 №.12, Стройиздат, p.31,
1957
- 145) Архитектура СССР 1960 №.10, Стройиздат, p.70,
1960
- 4) Ibid., p.24
- 5) Нурпеисов М. М., Малиновская Е. Г.-Рюнтю,
Проскурин В. Н. : op.cit., p.277
- 6) Архитектура СССР 1960 №.5, Стройиздат, p.48, 1960
- 7) Капанов А. К., Баймагамбетов С. К. : op.cit., p.325
- 8) Глаудинов Б. : op.cit., p.95
- 9) Дуйсенов Е. Д. : op.cit., p.166
- 10) Архитектура СССР 1962 №.9, Стройиздат, p.27, 1962
- 11) Архитектура СССР 1966 №.7, Стройиздат, p.13, 1966
- 12) Глаудинов Б. : op.cit., p.114
- 13) Ibid., p.116
- 14) Архитектура СССР 1962 №.9, Стройиздат, p.29, 1962
- 15) Глаудинов Б. : op.cit., p.104
- 16) Ibid., p.106
- 17) Архитектура СССР 1962 №.9, Стройиздат, p.28, 1962
- 18) Ibid., p.28
- 19) Татыгулов А. Ш., Ералиев Т. Е. : Архитектор
Рипинский Н. И. К столетию со дня рождения (建築家
N.I.リピンスキー 生誕 100 周年について) ,
Издательство «Басбакан» Проектная академия
«KAZGOR», p.64, 2006
- 20) Дуйсенов Е. Д. : op.cit., p.64
- 21) Капанов А. К., Баймагамбетов С. К. : op.cit., p.206
- 22) Глаудинов Б. А., Сейдалиев М. Г., Карпыков А. С. :
op.cit., p.222
- 23) Дуйсенов Е. Д. : op.cit., p.158
- 24) Ibid., p.55
- 25) Бекримжан Глаудинов : op.cit., p.297
- 26) Броницкая А., Калинин Н. : op.cit., p.44
- 27) Архитектура СССР 1969 №.4, Стройиздат, p.34, 1969
- 28) Архитектура СССР 1958 №.9, Стройиздат, p.44, 1958
- 29) Басенов Т. К., Гершберг В. Ш. : Градостроительство
Казахстана (カザフスタンの都市計画) , Издательство
«Казахстан», p.89, 1973
- 30) Ibid., p.88

注

- 1) 1961年にスターリン通りから共産主義通りと改名
2) ギーディオンの「空間・時間・建築」のロシア語訳の
出版は1984年

参考文献, 写真・図版は二次資料からの転載
(受理: 令和6年10月22日)

写真・図版出展

- 1) Архитектура СССР 1957 №.3, Стройиздат, p.49, 1957
- 2) Архитектура СССР 1959 №.2, Стройиздат, p.3, 1959
- 3) Архитектура СССР 1958 №.8, Стройиздат, p.24, 1958